

**G-COE「文化創造と社会的包摂に向けた都市の再構築」
特別研究員（若手）申請書（平成 23 年 8 月募集分）**
【必ず 7 ページで作成してください。】

1. 申請資格等

応募区分 (該当分に○)	【グローバルコース】 A-1 A-2 A-3 A-4 【マイスターコース】 B-1 B-2 B-3 B-4
(フリガナ)	
氏名	
性別	
国籍	
生年月日	
学歴	【学部】 ・卒業年月 ・大学・学部・学科名 【修士課程（前期博士課程）】 ・入学年月 ・大学院・研究科・専攻等名 ・修了（予定）年月
博士の状況	【{入学予定・在籍・修了・退学} 博士課程（後期博士課程）】 ・入学（予定）年月 ・大学院・研究科・専攻名 ・修了・退学（予定）年月 ・休学期間合計： 年 月 【博士論文】 ・博士取得大学 ・論文題目（予定） ・博士学位取得年月日（予定）
研究歴・職歴	
現在（直近）の 研究指導者	・所属： ・職名： ・氏名：
採用後の受入 研究者	・所属： ・職名： ・氏名：
採用後の研究 指導者 (A-3, B-3 除く)	・所属： ・職名： ・氏名：
採用後の所属 機関（予定）	
現在の所属機 関	
現住所	
連絡先	

申請者氏名 _____

2. 現在までの研究状況

(様式の改変・追加は不可。ただし、点線で区切られる項目間で分量を調整することは可。)

研究の背景・目的

研究の方法・経過（見通し）

研究の特色

研究成果（見通し）

申請者氏名 _____

3. 特別研究員採用後の研究計画

(様式の改変・追加は不可。ただし、点線で区切られる項目間で分量を調整することは可。)

3-1 研究内容

研究テーマ (40 字程度)
研究の背景・目的
研究の方法・体制
受入研究者の研究活動との関係
研究の特色・独創性

申請者氏名 _____

3-2 年次計画・予算

特別研究員として申請する期間： 年 月～ 年 月 (年 月)				
研究成果取りまとめの予定年月： 年 月 (博士論文審査申請予定・その他)				
研究の年次計画 (1年目) (2年目) (3年目)				

雇用について (3、4区分で申請する者のうち勤務が可能な者) 勤務可能な時期、希望する週あたりの勤務条件 (曜日、勤務可能な時間帯)				

予算 (【グローバルコース】G-COE 特別研究員としての活動計画と申請経費の関係、【マイスターコース】研究の方法-年次計画-申請経費の関係、が具体的にわかるように記述すること。) (1年目) (2年目) (3年目)				
申請 経費	FY2011 (2011/10-2012/3)	FY2012 (2012/4-2013/3)	FY2013 (2013/4-2014/3)	合計
	円	円	円	円

申請者氏名 _____

4. 研究業績

(様式の改変・追加は不可。ただし、点線で区切られる項目間で分量を調整することは可。)

学術雑誌等に発表した論文・解説・総説または著書【査読有り】
学術雑誌等に発表した論文・解説・総説または著書【査読無し】
国際会議における発表
国内学会・シンポジウム等における発表
その他（特許、報告書など）

5. 研究助成金・奨学金等の受給実績ならびに申請予定

(様式の改変・追加は不可。ただし、点線で区切られる項目間で分量を調整することは可。)

日本学術振興会特別研究員
科学研究費補助金
その他の研究助成金
その他の奨学金
その他

申請者氏名 _____

6. 研究指導者等による評価

(様式の改変・追加は不可。ただし、点線で区切られる項目間で分量を調整することは可。)

6-1 評価者1 (採用後の受入研究者)

評価者 (受入れ研究者) の所属・職・氏名	印
被評価者 (申請者) との関係	
申請者の研究能力に関する所見	
申請者の研究者としての将来像に関する所見	

申請者氏名 _____

6-2 評価者2（現在の研究指導者またはそれに準じる者 ただし、評価者1と異なること）

評価者の所属・職・氏名	印
被評価者（申請者）との関係	
申請者の研究能力に関する所見	
申請者の研究者としての将来性を判断する上で参考になると思われる事項 （たとえば、受賞歴、留学経験、特色ある学外活動など）	

申請者氏名 _____